

NHKと民主主義が危うい —会長と経営委員の言動を考える

榑井NHK会長は「政府と全く逆になることはあり得ない」と話します。では政府が「戦争する」と言えば、「逆」の報道はしないのでしょうか。



2014年**5月18**日(日)14:00~18:00

▲NHK 放送センター (東京・渋谷)

徳島大学常三島キャンパス・けやきホール
 入場無料・駐車場有(無料)・申し込み不要

公開講演会・シンポ



榑井会長は「政府が右というのを左とは言えない」「特定秘密保護法は通っちゃったんでしょうがない」などと発言。百田経営委員は南京虐殺を否定し、長谷川経営委員は天皇を神格化する意見を公言しています。報道機関が政府寄りになり、特定の見方のみ示すなら、民主主義は危うくなります。受信料は「市民の役に立つ公共放送」のために義務として払います。しかし「政府の役に立つ国営放送」のようなNHKに対し、払わねばならないでしょうか。民主主義におけるジャーナリズムの重要性を、研究者、弁護士、新聞記者の立場から考えます。

上脇博之(かみわき・ひろし)氏: 神戸学院大学大学院実務法学研究科教授。「NHKのあり方を考える弁護士・研究者の会」共同代表。著書に『なぜ4割の得票で8割の議席なのか』『自民改憲案vs日本国憲法』(いずれも日本機関紙出版センター)ほか。

- 13:30 開場
- 14:00~14:15 主催者あいさつ
- 14:15~15:45 上脇博之・神戸学院大学教授の講演「NHK会長・経営委員問題の経緯とその批判的検討」
- 16:00~17:30 パネル討論: 上脇氏×大西聡・弁護士(前徳島弁護士会会長)×中里見博・徳島大准教授(憲法学)×饗場和彦・徳島大教授(政治学、元新聞記者)
- 17:30~18:00 質疑応答

主催: 徳島大学総合科学部 国際政治学研究室/同憲法学研究室/「憲法食堂」実行委員会
 (問合せ: 饗場 088-656-7186、aibak@ias.tokushima-u.ac.jp)